

---

# 少年の決意

寿々

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

少年の決意

### 【Zコード】

Z2870B

### 【作者名】

寿々

### 【あらすじ】

一護が主人公のブリーチ小説。そして、少年の決意はまた結びなおされた。

(前書き)

これは、「一護と夜一さんと白哉と一角を」という  
キャラリクエストに応えた小説です。  
思いどおりの小説じゃないかも知れないけれど  
楽しんで読んでいただければ嬉しいです。

ソウル・ソサエティで藍染が反乱を起してから数日。  
一護の腹の傷も完全に塞がり、そろそろ現世に帰らつとした頃・・・

「おい。夜一さん」

「なんじゃ？」

「なんで俺、此処にいるんだ？」

ここは十一番隊隊舎=化け物の巣窟。  
もしかしてのもしかして、剣八なんかに見つかつたら・・・  
と考えると、総毛立つ。

「ああ、修行じゃ修行！お前寝てばっかで鈍ってるじゃん」

そんな一護の気持ちを知つてか知らずか、

夜一はにっこりと笑い、嫌がる一護を引きずり  
十一番隊隊舎へ入つていった。

十一番隊は相変わらず戦つてばかりだった。

絶対此処へ来ると、剣八がいなくとも戦う事になる。

「ああーっ。いつちーだまあああっ」

どうわーーっと音がして、何かが一護に体当たりしてきた。

「わーっ！ひつさしふりっ！いつちーーー！」

ピンク色の髪がひょいっと顔をだす。

草鹿やちるだ。

「どーしたの？いつちー。剣ちゃんはいないよ？」

ほーっと、一護は息を吐いた。

ひとまず、安心だ。

「い・・いや。夜一さんが、修行にひつて・・・」

「じゃあじゃあ！パチンコ玉と戦うといつーーー！」

そういうと、やちるはどんつと床をけつて

どこかへ飛んでいつてしまつた。

が、5秒も経たないうちに

一角を従えて戻ってきた。

「はい！いつちー！剣ちゃんの代わり！」

「ほう。三席か。一護、修行にピツタリじゃ。手合わせして来い」

「・・だからなんで修行しなきゃいけないんだよ」

ぶつぶつ文句を言つ一護を、夜一はきっと睨んだ。

「いつ敵の襲来を受けてもおかしくない！今のうちにやれることはやつておくんじゃ！」

「そーだぜ一護。それに、俺はお前と戦いたかったからな」

一角が一護を鼻で笑う。

かちん、と一護の額に青筋がたつ。

「今度はかたせねえぞ。一護！」

「ほーお。やれるモンならやってみろ！」

二人は手元にあつた木刀を取り

戦闘を開始した。

「・・・もつと美しく戦えないのかな」

遠くで見ていた弓親が溜息をもらす。

「ふん！やるじゅねーか！病み上がりのくせに」

「だあーかーらー怪我で直つたのは病み上がりじゃねーってーー！」

ちなみに二人は、この話題で前も争つた前科がある。

おかしな会話をしながらも、一護と一角は戦闘を止めようとしない。そしてついに

「此処だ！」

一護が一本取つた。

「・・ちえ、また負けか」

「今回も、俺の勝ちだな」

二人は笑つて、木刀をこつんと合わせた。

「いつちー！にゃんにゃん！つれてきたよー」

「やんにやん、とは多分夜一のことだろ。」

一時消えていたやちるの隣にさ、何故かルキアと白哉がいた。

「ルッキーと、びやっくん！ 対戦相手だよー！」

びやっくん、と呼ばれたことで、白哉の靈圧は上昇したが  
やちるはお構いなしに「ね、びやっくん」と笑う。

いやいや、

こんな状態で隊長格と？

無理だつて！

そんな一護の気持ちを察したのか

白哉は出て行こうとした。

「まつてよー。びやっくん！」

やちるが、白哉の裾を摑む。

その瞬間、白哉は瞬歩で其処から離れ  
一角が持っていた木刀を目に見えぬ速さで取り上げ  
それを一護の喉元に突きつけた。

「これが、貴様の弱点だ」

ぐぐりと、一護が唾を飲む。

「あの日の出来事はまぐれと言つてもいいだろ。」

怪我をしていたとは言え、これくらい避けられなければ

貴様は何時までたつても成長せぬぞ」

そう言い放つと、からんと木刀を捨て

ルキアの方へと歩き出した。

「行くぞ。ルキア」

「はっ・・はい。兄様」

「あの日！」

いきなり耳元に届いた声に、白哉が振り返る。

「あの日のことはまぐれかも知れないけど！

俺は強くなつて見せる！」

其処には、傷だらけで、包帯だらけで

でも確かに立つてゐる一護がいた。

白哉はふっと笑うと  
その場から消えてしまつた。

そひ、それは

新しく結びなおされた決意。

堅く堅く、強く強く

自分はもうきつと、泥沼にはまる事は無いだらう。

その決意が解ける事も無いだらう。

歩き出せ。

一步を踏み出すのだ。

「行くぞ。一護」

「ああ、夜一さん」

そして少年は、また歩き出す。

(後書き)

・・・どうでしょつか？

最後の詩は、なんとなくの気分で入れたものです。  
おかしなところがあつたらメールください。  
感想頂けたら飛んで喜びますっ！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2870b/>

---

少年の決意

2010年10月9日15時05分発行